

張愛玲文学作品における上海語研究(1)

—『十八春』(『半生縁』)の動詞を中心に—

吉田陽子

『十八春』¹⁾は張愛玲(1920.9.30-1995.9.8)²⁾が1950年に中国で発表した作品であり、『半生縁』³⁾は同氏が『十八春』を改作して、1968年に台湾で発表した作品である。

ここで、『十八春』と『半生縁』の内容の違いを簡単に紹介すると次のようになる。

『十八春』の第1章には、「彼が曼楨と知り合ったのはすでにずっと昔のようなことであった。数えてみればすでに18年の年月が流れていた」(『十八春』1頁、下線は筆者、以下同様。)と描かれ全18章からなる。一方、『半生縁』には「彼が曼楨と知り合ったのはすでにずっと昔のようなことであった。数えてみればすでに14年の年月が流れていた」(『半生縁』69頁)と描かれ全17章からなっている。『十八春』と『半生縁』とでは第13章からの描写の相異が顕著である。『十八春』には、第13章から第18章(最終章)までに、主人公である顧曼楨の友人許叔恵が紅軍の北上抗日に共鳴し、上海から共産党の陝西省にある解放区へ革命に参加すること、そして新中国が成立し、上海を訪れた際には、顧曼楨は建国からの影響を受け、新聞で東北での人材募集の記事に目をとどめると、試験に合格し、東北(瀋陽)へ赴くことが描かれている。一方、『半生縁』の第13章から17章(最終章)では、顧曼楨の友人許叔恵は米国へ留学し、抗日戦争が終了後に米国から一時帰国した際、顧曼楨の元恋人である沈世鈞は愛のない生活に悩み、許叔恵に米国への留学の可能性を尋ねるといった内容が描かれている。⁴⁾

本稿で筆者は、『十八春』(『半生縁』)で使用される上海語に注目する。それは、作品における上海語表現が張愛玲文学の特徴の重要な一つの要素であると考えからである。

そこで本稿を皮切りにこれから張愛玲文学作品に使用する上海語を紹介していく。

本稿では、まず張愛玲の使用する動詞に着目することにする。それは、作品を具体的に分析する前は、上海語と共通語との相異が各品詞ごとに顕著であろうと考えていた。しかし、第1章にある上海語を品詞ごとに分析すると、下述で取り上げる動詞を除いて、名詞が4語(館子:gēuzǐ〈レストラン〉2-21)(原文:上海語の発音〈日本語の意味〉2頁-21行)(以下同様)・(性質:xīnzák〈〜に属する〉2-25)・(烘山芋:hònsāeyhú〈焼き芋〉4-20)と(河浜:hhúbàn〈小さな川〉9-7)、形容詞が2語(绒兜兜:nióndòedòe〈ふわふわとしている〉5-24)と(热烘烘:nǐkhònhòn〈とても熱い〉10-4)、副詞が2語(刚巧:gānqiāo〈折りよく〉5-9)と(仍旧:zhénjhióe〈依

然として12-1)のみと、少量であることが判明した。すなわち、張愛玲は主に上海語の動詞を共通語との違いとして使い分けることで、登場人物の姿を生き生きと読者と対面させているといえるのではないだろうか。

なお本稿では、『十八春』と『半生縁』との上海語表現の相異は確認できなかったため、テキストには、江蘇文藝出版社出版、1986年1月第1版『十八春』を使用する。

本の構成は、第1章 1-12頁、第2章 12-27頁、第3章 27-45頁、第4章 45-68頁、第5章 69-86頁、第6章 86-94頁、第7章 94-112頁、第8章 112-133頁、第9章 133-151頁、第10章 151-171頁、第11章 171-193頁、第12章 193-225頁、第13章 225-239頁、第14章 239-283頁、第15章 284-309頁、第16章 309-329頁、第17章 329-354頁、第18章 354-357頁となっている。

今回は第1章から第6章までの上海語の動詞を考察し、残りは次回に掲載する予定である。

先に、分析に使用したテキストと分析方法を説明しておく。

1. 使用テキストについて

- ① 『十八春』(江蘇文藝出版社出版・1986年1月第1版)
- ② [長篇小説『半生縁』(皇冠文化出版有限公司・典藏初版一刷、2001年4月1日。)]

2. 下記の『十八春』の動詞について」の表に関して

- ① 「原文」の下線部分は、『十八春』に現れる上海語の動詞を取り出したものであり、「説明」は、「原文」の日本語訳や説明及び中国語共通語との類似語の表示である。
- ② 『十八春』に取り上げる文章と説明部分の語彙は中国語の略字を使用する。
- ③ 参考資料について

1) ローマ字及び声調の表記法は、『エクスプレス上海語』(榎本英雄／范晓 著、白水社、1996年4月5日第6刷)を参考にしたものである。例えば、

声調Ⅰ声 [平声] zàn (張) 高から低点まできれ目なく下降させます。

Ⅱ声 [陰去] zān (壯) 中高点から微上昇させます。

Ⅲ声 [陽去] zhán (長) 低点から中高点まで上昇させます。

Ⅳ声 [陰入] zāk (扎) 高点で短く日本語の促音のように声をつめます。

Ⅴ声 [陽入] zhāk (石) 低点で短く日本語の促音のように声をつめ、終了時には中点近くまで上昇させます。(『エクスプレス上海語』12-13頁)

2) 日本語訳は、『上海語常用同音字典』(宮田一郎 編著、光生館、昭和63年9月10日初版)等を参考したのである。

3. 連読変調について

上海語の会話は連読変調が生じるものではあるが、本稿ではすべて文字毎に声調を附し、連読表記はしていない。

『十八春』の動詞について

章-頁-行	下線の語彙—上海語の動詞 ローマ字—上海語の発音	(文章の翻訳)、〈共通語の動詞〉/〈共通語の動詞 +その他の成分〉
1章-2頁-13行 (以下「1-2-13」 と略す)	今年倒好，不在家过年， <u>少掉</u> 许多麻烦。 少掉 (sāodhiáo)	(しかし、今年は良かった。家で正月を過ぎさない ので、面倒なことを沢山減らすことができる。) 少掉:省ける。結果補語の用法。〈省掉〉〈減少〉
1-2-22	街上满地都是 <u>贯炮</u> 的小红纸屑。 贯 (ghuáe)	(町の至る所では爆竹を投じた後の赤い細かい 紙くずで一杯だ。) 贯:投げる。「贯炮仗 ghuáepāozhán」 とも言う。〈放〉/〈放鞭炮〉
1-3-11	她把两只手 <u>抄</u> 在大衣袋里，……。 抄 (cào)	(彼女は両手をコートポケットにつっこんで、 …)抄:(手をポケットへ)つっこむ。「抄在 cào zhái」は結果補語の用法。〈插〉/〈插在〉
1-3-12	那朱漆长凳上面 <u>膩</u> 着一层黑油，……。 膩 (ní)	(その朱塗りのベンチには汚れた油が粘りついて いて、…)膩:(油などの汚れたものが)粘りつい ている。「黒油」は「汚れている油」の意味であり、 「膩着 nízhāk」は動態助詞「着」を加えた用法。 〈粘〉〈沾〉/〈粘着〉〈沾着〉
1-3-20	这茶我想你们也不见得 <u>要吃的</u> 。 吃 (qik)	(このお茶を飲みたいとは思わない。) 吃:飲む;食べる。吃茶 (qikzhó)はお茶を飲むと いう意味。離合詞であるため、「茶」を強調する 時、「吃」の前に置くことが可能。〈喝〉/〈喝茶〉
1-3-21	说着，就把他面前那双筷子取过 来，在茶杯里面洗了一洗，拿起来 <u>甩了甩</u> ，把水晒干了，……。 甩 (huak)	(彼女は言いながら、目の前にあるその箸を取り 出して、コップの中で少々洗い、取り出してちょ っと振って、水を乾かした。 甩 (huak): 振る。甩了甩 huaklěkhvak:ちょっ と振った。
1-4-6	把汤勺也在茶杯里 <u>淘一淘</u> 。 淘 (dháo)	(さじを湯呑みの中でちょっとかき回した。) 淘:かき混ぜる;かき回す。「淘一淘 dháoyik dháo」は動詞の重ね型。〈搅〉〈搅拌〉/〈搅一 搅〉〈搅拌一下〉
1-4-7	世鈞 <u>舀</u> 了一匙子喝着。 舀 (yhiáo)	(世鈞は一さじをすくって飲んでいた。) 舀:(スープを)すくう。共通語の「舀 yáo」は、三 重母音であるが、上海語の「舀 yhiáo」は二重母 音で、「イオ-」と発音する。「舀汤 yhiáotàn : ス ープをすくう。「舀水 hiáosī:水をすくう」のよ うに使う。)

1-5-9	你刚巧是那种唱滑稽的 <u>冲</u> 下手的人材。 唱(cān)·冲(còn)	〈君は正にコメディーを演じたり、端役になる人よね。〉 唱滑稽(cānhhǎkjì):コメディーや漫才を演じる。「唱滑稽戏(cānhhǎkjixī)」も使われる。)ここでは、ひょうきん者をいう。 芝居を使ったその他の表現: 呸没戏唱(mmǎkxīcān): 途方に暮れる。仕方がない。 冲下手(cònghósōe): 重要視されないことを行う人。〈充〉/〈充当下手〉
1-6-5	他仍然一张张地 <u>掀</u> 着日历。 掀(xī)	(彼はそれでも一枚一枚にしてカレンダーをめくっていた。) 掀:めくる。掀日历(xìzhǎklík): カレンダーをめくる。〈翻〉/〈翻日历〉
1-6-13	吃了饭我们还要 <u>拣</u> 个风景好的地方去拍两张照片。 拣(gāe)	(ご飯を食べてから景色の良い場所を選んで何枚かの写真を撮りに行かなければならない。) 拣:選ぶ。拣地方(gāedífàn): 場所を選ぶ。〈选〉〈挑选〉/〈选景点〉〈挑选地方〉
1-6-25、26	她还是从抽屉里取出一条折叠得整整齐齐的毛巾, 在叔惠喝剩的一杯开水里 <u>蘸</u> 湿了, 递了过来。 蘸湿(zāesak)	彼女はそれでも引き出しの中からきちんと畳んであったタオルを取り出して、叔惠さんの飲み残した白湯の中で濡らして、渡してきた。 蘸湿:濡らす。〈沾湿〉
1-7-24	到了冬天一定一天到晚 <u>伤</u> 风。 伤风(sànfòn)	(冬になると、きっとしょっちゅう風邪を引くに違いない。) 伤风:風邪を引く。鼻水など軽い風邪の症状が出る時に使われる。(「伤风感冒(sànfòngēumáo)」も使われる。)<感冒>
1-8-11、12	不会是 <u>敲</u> 我们的竹杠吧? 敲(kào)	(私たちは吹っかけられたのではないか。) 敲:ゆすり取る。敲竹杠(kàozokgān):高値をふっかけてぼる。ゆする。(高い買物をさせられる時、「敲竹杠」、「勿要敲竹杠 vĕkyāokàozokgān:ゆすらないで下さい。」のように使われる。)<敲诈>
1-9-7	他远远看见有人打着灯笼, <u>撑</u> 着杏黄色的大伞。 撑(càn)	(彼は遠くから、ある人が提灯をさげて、橙色の大きな傘をさしているのを見かけた。) 撑:(傘を)さす。撑伞(cànsāe):傘をさす。「撑阳伞(cànyhiānsāe)」も使われる。〈打〉/〈打伞〉
1-9-15	他真 <u>懊</u> 悔来到这里, ……。 懊悔(àohuē)	(彼はここに来たことは本当に後悔し、…。) 懊悔:後悔する。「懊恼 àonáo」も使われる。)<后悔>
1-10-2	她也机械地把那红手套 <u>捏</u> 成一团, ……。 捏成(nǎkzén)	(彼女も思わずあの赤い手袋を丸めて、…。) 捏成:丸める。結果補語の用法。〈团成〉〈揉成〉

1-10-3	然后 <u>搭讪</u> 着就塞到大衣里去了。 搭讪 (tǎksàe)	(そしてきまり悪そうに話をしながら、コートに入れた。) 搭讪: きまり悪そうに話しかける。(「搭讪头 tǎksàedhóe」の用法もある。)〈拉話〉〈搭讪〉
1-10-7	当时虽然无缘无故地 <u>窘</u> 成这样, 过后倒还好, ……。 窘(jiōn)	(その当時、訳も分からず、これまでもきまりが悪かったが、しかしその後何とか平常心に戻って、…。) 窘: 決まりが悪い; ばつが悪い。共通語も「窘」を使うが、上海語では結果補語の用法で、「窘成这样」または「窘到这种地步」のようにも使われる。
1-10-25	厨房里已经在 <u>烧晚饭</u> 了。 烧饭(sàováe)	(台所にはすでに晩ご飯が作られていた。) 烧饭: ご飯を作る。(烧菜 sàocāe: 料理を作る。) 〈做饭〉
1-10-12	昨天就是 <u>撑着</u> 来的。 撑(càn)	(昨日は、このようにして無理して出てきたんだ。) 撑: 我慢する。「撑着(cànzhǎk)は動態助詞「着」を加えた形。「着」の代わりに「得」を使い、「撑得来 càndekáláe」の用法もある。)〈支撑〉〈坚持〉
1-13-21	(他) <u>搭讪</u> 着拿起一瓶蕃茄酱, ……。 搭讪 (daksàe)	(彼がきまり悪そうに話をしながらケチャップを取り出して、…。) 搭讪: 「1-10-3」に同じ。
2章-14頁-2行	我父亲从前是在一个书局里 <u>做事</u> 的, ……。 做事(zūsí)	(父は、以前ある本屋で仕事をしていて、…。) 做事: 勤める。(「做事体(zūsítì)」の用法もあるが、仕事以外のことを行う時に多く使われる。) 〈工作〉
2-15-1、2、3	她家里现在住着的一幢房子, 还是她姊姊从前和一个人同居的时候, 人家给 <u>顶</u> 下来的。 顶(dīn)	(彼女の一家が今住んでいる家は、彼女の姉がまだその頃ある人と同棲していた頃、相手に権利を譲り渡してもらったものだ。) 顶: 権利の譲り渡しと譲り受けの意味。「顶下来 dīnhhóláe」は方向補語の用法。〈承受〉/〈承受下来〉
2-15-7	她那个最小的弟弟名叫杰民, 正在弄堂里 <u>踢毽子</u> 。 踢(tík)	(彼女の一番下の弟は杰民と言い、ちょうど路地で羽根蹴りをしていた。) 踢: 蹴る。踢毽子(tíkjīzǐ): 羽根蹴り。昔、上海っ子が、特に冬に、体を温めるためよく遊んでいたゲーム。
2-15-15	她便站在厨房门口向里 <u>张</u> 了一张, 没有直接走进去。 张(zàn)	(彼女は台所の入り口に立って中の様子をちょっと見てはいたが、すぐには入って行かなかった。) 张: 見る。「张了一张(zànlěkyikzàn)」は、動詞の重ね型で過去を表す。「看了一眼」とは、空間にあるものを見る時は同様に使われるが、「本を読む」、「テレビを観る」時は「看 kēu」が使われる。〈瞧〉〈张望〉/〈瞧了一眼〉〈张望了一下〉

2-16-18	曼楨前两天发寒热，睡了好两天呢。 发(fāk)	(曼楨は数日前に熱が出て、何日も寝込んだわよ。)(好两天:〈好几天〉) 发:(熱が)でる。发寒热 fākhéuník:熱がでる。(「有寒热 yhióehhéuník:熱がある」も使われる。)<发>/<发烧>
2-17-20	她现在轧的这帮人越来越不像样了。 轧(ghǎk)	(彼女の最近付き合っている仲間は段々ひどくなってきた。) 轧:付き合う。(「轧道 ghǎkdáo」・「轧朋友 ghǎkbhányóe」:友達として付き合う)も使われる。)<交>/<交朋友>
2-17-24	曼璐突然说道：“你老实告诉我，老王是不是又跟菲娜搅上了?” 搅(gháo)	(曼璐は突然、「正直に言いなさい。最近王さんはまた菲娜と異性関係を持ってしまったのではないか?」と言った。) 搅:無茶なことをする。「搅上(gháozhán)」は結果補語の用法で、関係をもってしまうとの意味。(「搭上 dakzhán」も使われる。)<搞>/<搞上>
2-17-26	曼璐也不理他，把她吸的一支烟重重地撇灭了，……。 撇灭(qīnmǐk)	(曼璐は彼のことを相手もせず、吸っていたタバコを思い切って指で押して消した。) 撇灭:「撇」は手や指で押すという意味で、「撇灭」は指でタバコの火を消すという意味。(「撇脱 qīntak」も使われる。)<熄灭><熄掉>
2-19-19	她不耐烦地用一排手指在上面一阵乱扫乱揩，……。 扫(sāo)・揩(kā)	(彼女はいらいらして、5本の指で(鏡)の上をやたらにひとしきり撫で回したり、拭いたりしていた。) 扫:撫で回す。<抚摩>。揩:拭く;塗る。(揩台子 kādháezī:机を拭く。)<擦>
2-21-13	曼楨不耐烦地剪断她的话。 剪断(jǐndhéu)	<曼楨はいらいらして彼女の話のをさえ切った。> 剪断:さえぎる。<截断><打断>
2-22-25	我劝她拣个人嫁了，……。 拣(gāe)	(私は彼女に相手を選んで嫁ぐようにと説得したが、…。)拣:~を選ぶ。拣个人 gāeghékín:人を選ぶ。<挑选个人>。拣物事 gāemǎkzhí:物を選ぶ。<挑选东西>
2-25-10	你别瞎疑心，……。 疑心(níxìn)	(つまりぬ疑心を起こさないように、…。) 疑心:疑う。瞎:むやみに;とりとめなく。瞎疑心 hākníxìn:やたらに憶測する。(「瞎猜 hākcàe」も使われる。)<猜>/<瞎猜>
2-25-17、18	没有什么别的条件了吧? 没有什么别的，我们就‘敲’! 敲(kào)	(他の条件はもうないよね。無ければ、決まりだ。) 敲:普通は「敲定 kàodhín」と使われる。話しがまとまる。<定>/<说定><一言为定>
2-26-17	不喽，我们不跟过去了。 跟(gèn)	(いや、いや、私たちはついて行かないことにするわ。<母親が、結婚する娘の家に行って、同居すべきかどうかという話し。)> 跟:付く。跟过去(gèngūqī)は方向補語の用法で、ついて行くという意味。<跟随过去>

2-27-12	仿佛怕她家里的人笑她 <u>拣中</u> 这样一个丈夫。 拣中(gāezòn)	(彼女は家族にこのような夫を選んでしまったことを笑われるのではないかと心配していた。) 拣中: 選び当てる。結果補語の用法。〈选中〉
3章 28頁 3行	结果 <u>延挨</u> 了一会。 延挨(yí'āe)	(結局、時間を少し遅らせた。) 延挨: 遅らせる。「挨」は形容詞「晚」と同じ意味。〈推迟〉
3-29-5、6	曼楨也知道他是 <u>错会</u> 了意思, ……。 错会(cùhhué)	(曼楨も彼が意味を理解し間違えたことを知っていた。) 错会: 誤解する。〈误会〉〈领会错〉〈理解错〉
3-29-18	倒是楼底下五魁八马的 <u>豁拳</u> 声听得十分清晰, ……。 豁(hak)	〈かえって一階で数字を歌いながらじゃんけんをしている声ははっきりと聞こえてきて、…。〉 豁拳(hakjhué): じゃんけんをする。〈划〉/〈划拳〉〈猜拳〉
3-34-5、6	出去的时候顺手就 <u>带上</u> 了门。 带(dā)	(出て行く時、ついでにドアを閉めた。) 带: 閉める。带上(dāshán): 結果補語の用法で、ドアを静かに閉める時に使う。〈关〉/〈关上〉
3-30-8、9	<u>凑满</u> 一桌就开一桌酒席。 凑满(cōeméu)	(一卓に全員が揃うと、宴の膳たてがすぐ始まる。) 凑满: 集め揃える。〈凑齐〉
3-31-25	他自己也还是第一次 <u>踏进</u> 这弄堂。 踏(dhǎk)	(彼自身は初めてこの路地に足を踏み入れた。) 踏: 踏む。踏进(dhǎkjīn): 方向補語で、足を踏み入れるという意味。〈走〉/〈走进〉〈走入〉
3-32-19	他仍旧以为这两个人是跑来 <u>寻</u> 开心的。 寻(xhín)	(彼はそれでもこの二人がからかいに来たと思っていた。) 寻: 見つける。寻开心(xhínkàexìn): からかう。冗談を言う。〈开玩笑〉〈挑逗〉
3-33-2	她母亲笑道: “在家, 我叫杰民上去 <u>喊</u> 她了。——贵姓呀?” 喊(hāe)	(彼女のお母さんは笑いながら、「家にいるよ。杰民に2階へ彼女を呼んできてもらっている。——どちら様でいらっしゃいますか?」と言った。) 喊: 呼ぶ。喊人 hāenín: 人を呼ぶ; 喊车 hāecò: 車を呼ぶ。〈叫〉
3-35-10	世钧道: “就是为了我, 也 <u>怏</u> 了许多 <u>气</u> 。” 怏气(ōeqī)	(世鈞は「僕のためだけでもよくいらいらした」と言った。) 怏气: 腹をたてる; むしゃくしゃする。離合詞。(使役で、「叫人怏气: jiāonínōeqī」の用法もある。) 〈恼火〉〈生气〉
3-35-15	后来我进大学, 还是靠我母亲偷偷地 <u>接济</u> 我一点钱。 接济(jíkjī)	(その後僕が大学に入ってから、母のこっそりとした仕送りに頼っていた。) 接济: (学費の) 仕送り; 援助する。〈寄学费〉
3-41-14、15	世钧拿起热水瓶来给她 <u>添</u> 上点开水。 添(tī)	(世鈞はポットを持ち上げて彼女に少しお湯を入れた。) 添: 足す。添上(tīshán): 結果補語の用法。添上开水(tīshánkàesī): お湯を足す。

		(ご飯のお代わりは「添飯 tīvái」が使われる。)〈加) / 〈加上开水〉。
3-42-8	曼楨道：“你的箱子理好了没有？” 理(lí)	(曼楨は「トランクの整理ができたか」と聞いた。)理:整理する。理好(líhǎo):結果補語の用法で、きちんと整理ができること。〈整理〉
3-43-21、22	要铺床，先得把床上那只箱子拿掉……。 铺(pù)	(布団を敷きたいので、先ずベットにあるあのトランクを下ろさなければならない。)铺:敷く。铺床(pùzhān):ベットに布団を敷く。(「铺被头(pùbèihóu)」も使われる。「铺床」と「铺被头」の区別は、「铺床」が、ベットを整理してから布団を敷く;「铺被头」が布団を敷くだけの動作が表現される。)〈铺被子〉
3-44-24	她没有接口，轧轧轧又做起缝衣机器来了。 接(jiē)	(彼女は受け答えもせず、ゴーゴーとまたミシンを踏んでいた。)接:受ける。接口(jiēkǒu):他人の言葉を受けて話す。(「搭腔 dākāng」も使われる。)〈接嘴〉
4 章-46 頁-23、24 行	小健虽然已经好了，仍旧会过人的。 过(guò)	(健ちゃんはまだ治ったが、しかしまだ人に感染することがあるであろう。)过:甲から乙へ感染する。过人 gūnrén:人に感染する。(否定の「勿过人 wùguòrén」もよく使われる。)〈传染〉
4-46-26、4-47-1	马上取出各种细毛的皮统来给他挑拣。拣过了，仍旧收起来……。 拣(gān)	(すぐ、色んな毛皮製品を取り出して彼に選んでもらい、選んでもらったらまた片付けて、…)拣:「1-6-13」に同じ。
4-51-26	偏那陈妈又不识相。 识相(sàixiāng)	(よりによって陳おばさんは気をきかせていなかった。)识相:気をきかせる。(否定の「勿识时务 wùshíshíwù」も使われる。)〈识时务〉
4-53-3	所以我赌气买了块牛肉回来，自己煨着。 煨(wāi)	(そのため、私は意固地になって、牛肉の固まりを買って帰り、とろ火でよく煮込んでいる。)煨:とろ火でよく煮込む。(煨牛肉 wāiniú):とろ火で牛肉を煮込むこと。)〈煮〉
4-54-2	走了一截子路，他当真喊住了马车夫，……。 喊(hǎn)	(暫く歩いたら、彼は本当に馬車の車引きを止めていた。)喊:呼ぶ。喊住:結果補語の用法で、流し馬車を止めた。(喊出租车(hǎnchūzìchē):タクシーを呼び止める。)〈叫〉
4-55-12	世钧把她送到大门口，要等她揪了铃，有人来开门，方才走开。 揪(qiū)	(世鈞は彼女を入口の門まで見送って、彼女がチャイムを鳴らして、ドアを開けてくれる人が居るのを確認してから、やっと離れた。)揪:押す。揪铃 qiūlíng:チャイムを押す。(「揪电铃 qiūdiànlíng」も使われる。)〈按) / 〈按铃〉

4-56-25	爱咪便背过手去 <u>捞</u> 她的胳膊，……。 捞(lào)	(エミはすぐ後ろから手を回して彼女の腕を引っ張って、…。) 捞:~を引っ張る。捞胳膊(làogakbok):腕を引っ張る。〈拉〉/〈拉胳膊〉
4-57-23	奔了过去。 奔(bèn)	(走っていった。) 奔:走る。奔过去(bèngūqī):走っていった。方向補語の用法。(勿要奔 vèkyhiāobèn:走らないように。) 〈跑〉/〈跑过去〉
4-58-24	一鹏现在没出去 <u>做事</u> 是吧? 做事(zūzhí)	(一鹏は今お勤めに行っていないよね。) 做事:「2-14-2」に同じ。
4-59-22	他笑道:妈又要来了!我去睡觉了。 来(lái)	彼は笑いながら「お母さん、また同じことを言い出した。もう寝るよ。」と言った。 来:「说」の代わりに使っている。「又要来了 yhióeyāolálek」:また同じ話しを繰り返す。 〈说〉〈唠叨〉/〈又要说了〉〈又要唠叨了〉
4-61-4	爱咪也不 <u>睬</u> 她,自顾自忙着打听哪家电影院是新换的片子。 睬(cāi)	(エミは彼女のことを相手にもせず、せっせとどの映画館が新作を上映しているかをチェックしている。) 睬:相手にする。(多くの場合「不睬 vèkcāe:相手にしない;取り合わない。」という否定の用法が使われる。) 〈理〉/〈理睬〉
4-61-17	她鞋上的高跟 <u>别断</u> 了一只,变成一脚高一脚低。 别断(bhīkdhéu)	(彼女のハイヒールの片方がひねって折れて、高さが不揃いとなった。) 别断:ひねって切れる。結果補語の用法。(别脚 bhīkjak:足をひねる。) 〈扭断〉
4-62-18	那门房听他这么说,还 <u>当</u> 他是从方家来的。 当(dàn)	(あの門番は彼の話聞いて、彼が方家から来たと思い込んでいた。) 当:思い込む。思う。〈以为〉
4-66-22	她气烘烘地走进客厅,将手里的一只鞋盒向沙发上一 <u>掼</u> 。 掼(ghuáe)	(彼女は立腹して応接間に入って行き、持っている靴入れをソファの上に放った。) 掼:放る。投げる。〈扔〉〈甩〉
4-68-5	翠芝却本能地往后退了一步,站在暗影里,拿手帕捂着脸 <u>擤</u> 鼻子。 擤(hhēn)	(しかし翠芝は本能的に後ろに下がって、暗闇の中に立って、顔をハンカチで隠しながら鼻をかんでいた。) 擤:鼻をかむ。擤鼻子(hhēnbhīkzī):鼻水をかむ。〈擤〉/〈擤鼻涕〉
5章-70頁-5行	脸上也只淡淡地 <u>扑</u> 了点粉,……。 扑(pok)	(顔には化粧用のパウダーを薄くだけはいれた。) 扑:はたく。扑粉(pokfēn):化粧用のパウダーをはたく。〈擦〉/〈擦粉〉
5-72-15	小健这孩子,老是生病,也不知 <u>养</u> 得大养不大。 养(yán)	(健ちゃんという子は病気がちで、大きく育つかどうかも分からない。) 养:育つ。「养得大(yándekdhú)」は可能補語の用法で、「大きく育つ」という意味。〈扶养〉/〈扶

		养得大)
5-72-18	他这次回来, 看见母亲有点 <u>颠三倒四</u> , ……。 颠三倒四(dīsàndāosī)	(彼は今回帰省して、母が少し頭がおかしくなったことに気づき、…。) 颠三倒四: 思考力がはっきりしない。(「神志胡主 sénzhīhúzi」の用法もある。)〈糊里糊涂〉
5-73-20、21	他的钱都 <u>捏</u> 在那个女人手里。 捏(niǎk)	(彼の金は全部あの女に握られている。) 捏: 握る。捏在(niǎkzhái): 結果補語で、(自分のものにして)握る。〈抓〉/〈抓在〉
5-74-9、10	才跟二叔 <u>混熟</u> 了, 倒又要走了。 混熟(huénzhōk)	(二番目の叔父とやっと慣れてきたのに、はからずも叔父が)また行ってしまう。) 混熟: 親しく付き合っている。〈搞熟〉
5-77-20	他 <u>懊悔</u> 刚才没有能够把话说得明白一点, ……。 懊悔(ào huē)	(彼は、先、話を分かりやすいように話していなかったことを後悔した。) 懊悔: 後悔する。(「懊恼: àonáo)の用法もある。)」 〈后悔〉
5-78-17	他 <u>扣准</u> 了时候, 七点十分在顾家后门口 <u>揷</u> 铃。 扣准(kōuzhēn)	(彼は時間を正確に計算して、7時10分に顧家の裏門の所でベルを鳴らした。) 扣准: 正確、ぴったりすること。 (「扣准时候」は「扣准辰光 chéngàn」の用法もある。) 〈看准〉
5-79-2、3	喂, 可以 <u>收</u> 摊子了! 要腾出地方来摆筷子。 收(sòe)	(みんな、出したものを片付けなさい。お箸を置く場所を空けてくれないと。) 「可以～了」は「要～了」の意味。 收: 片付ける。收摊子 sòetàezhī: 出したものを片付ける。〈收拾〉
5-80-19、20	他从书架上 <u>抽</u> 出一本书来看, ……。 抽(còe)	(彼は本棚から一冊の本を取り出して読んでいて、…。) 抽: 引き出す。引っ張り出す。抽出 còecak: 方向補語の用法。〈拿出〉
5-81-1	你 <u>挟</u> 点酱肉给他。 挟(ji)	(豚肉の角煮を彼に入れてあげてください。) 「挟点」の「点」は、共通語の「些」に当たる。 挟: 挟む。(挟小菜 jìxiāocāe: 料理を挟む。客に料理を勧める時皿に取ってあげる動作。) 〈夹〉/〈夹菜〉〈挟菜〉
5-81-23、24	但是手里拿着针, 也不知 <u>戳</u> 到哪里去了, 一不小心就扎了手。 戳(cok)	(しかし持っている針がどこを刺しているかも分からず、うっかりするとすぐ手を刺してしまった。) 戳: 刺す。戳到(cokdāo): 結果補語の用法。 〈扎〉/〈扎到〉
5-82-11、12	曼桢和弄堂里的小朋友们常常跟在他们后面鼓噪着, <u>盯</u> 他们的 <u>梢</u> 。 盯梢(dìnsào)	(曼桢は小巷の子ども達と一緒によく彼らの後ろにくっついてガヤガヤ騒ぎ立て追いかけた。) 盯梢: 尾行する; つける。〈尾随〉〈盯梢〉

5-85-19、20	玻璃门 <u>荡来荡去</u> ，送出一阵人生和温暖的人气。 荡来荡去(dhánláedhánqī)	(ガラスの扉は前後と揺れ動いて、ひとしきり人生と暖かい人の温もりの気配を送り出している。) 荡来荡去:前後・左右に揺れ動く。〈揺来揺去〉
6 章-87 頁 -23、24 行	叔惠是始终不肯 <u>松</u> 这句口。 松口(sònkōe)	(叔惠はどうしてもこのことばを言い直したくなかった。) 松口:(言ったことを)取り消す。「松口」は離合詞で、「不肯松这句口」は、言ったことを頑として最後まで通したいという表現。〈改口〉
6-88-1	叔惠换了一个地方 <u>做事</u> ，……。 做事(zūzhí)	(叔惠は勤め先を変えて仕事し、…。) 做事:「2-14-2」に同じ。
6-92-26～ 6-92-1	炉子是一只极小的火油炉子，原是 <u>烧饭</u> 用的，现在搬到房间里来，用它 <u>炖水</u> 取暖。 烧(sào)、炖(dēn)	(コンロは一つ非常に小さな石油コンロで、元々は炊飯用に使われていたが、今は部屋に入れて、お湯を沸かして暖を取ることに使っている。) 烧:「1-10-25」に同じ。 炖:とろ火で煮込む。炖水(dēnsī):(弱火で)湯を沸かす。〈烧水〉

【注】

- 1) 1950年4月25日から1951年2月11日まで、梁京というペンネームで、『亦報』(龔之方、唐大郎主宰)において『十八春』を連載し、一年を費やしてようやく完成した。(『張愛玲年譜』張惠苑編集、天津人民出版社、2014年1月。75頁。)
- 2) 歴史の偶然かもしれない。1937年11月12日日本軍が上海占領の時期から、1945年8月日本が無条件降伏する時期までは所謂上海の『孤島時期』・『占領時期』であった。…(中略)…張愛玲は『孤島時期』ピーク時の1943年に、絶世の華やかさで上海の文壇でのデビューを果たした。(『半生縁』〈導讀〉南方朔、皇冠文化出版有限公司・典藏初版一刷-2001年4月1日。10頁。)
- 3) ①同月(1968年2月一筆者)『十八春』を『惘然記』と改題し、台北『皇冠』168期-173期にて7月まで連載する。(上記1)に同じ、167頁。)
②『半生縁』:「長篇小説、台北・『皇冠』出版社、1968年」・「広州・花城出版社、1987年」。同書は、『十八春』の改定版であり、『惘然記』と題名されたこともある。(『張愛玲伝』余斌著、広西師範大学出版社、2001年12月第2版。447頁。)
- 4) 次は、張愛玲『十八春』(江蘇文藝出版社出版、1986年1月第1版)及び『半生縁』皇冠文化出版有限公司、典藏初版一刷-2001年1日)を参考しながら、小説のあらすじを紹介し、両者の相異点を列挙する。

主要登場人物：

- ・顧曼楨(女性、年齢は不詳だが、結婚適齢期の設定。会社の事務員、上海出身〈本籍は六安州県〉。)
- ・沈世鈞(男性、曼楨の恋人、工学部を出て、実習生として顧曼楨と同じ会社に勤務し、南京出身。)
- ・許叔惠(男性、沈世鈞とは学校の先輩で、同じ会社に勤務し、親友でもある。上海出身。)
- ・曼璐(女性、曼楨の姉、バーのダンサー。)
- ・祝鴻才(男性、曼楨の夫、株売買の業者。)
- ・張慕瑾(男性、『半生縁』では豫瑾と改名し、曼璐の幼馴染で、小さい頃から二人は将来結婚すると両方の両親に認められていた人。六安州県で町医者をしている。)
- ・石翠芝(女性、南京に在住、沈世鈞の兄嫁の従妹で、後彼の妻となる。)

あらすじ：

主人公顧曼楨の本籍は六安州県だが、小さい頃から上海に住み着いている。20代の頃から上海にある会社に勤務し、同じ会社の技術者である沈世鈞と恋人同士となり、やがて沈世鈞から結婚指輪をもらい、結婚の約束をしていた。

曼璐は曼楨の姉であり、若い頃から家計の助けのためバーのダンサーとなり、世間ではあまり良い目で見られていなかったが、祝鴻才という株売買をしている男に見初められ、結婚した。祝鴻才には、田舎に正妻が居るが、妾が居てもうさく言われることがなかったし、その後正妻が病死する。曼璐は水商売という職業病のため、子どもが産めない体となっていて、子どもの欲しさにある策略を立てる。ある日、病気の見舞いに来て欲しいという口実で、妹の曼楨を家に来てもらって、泥酔している夫の部屋に閉じ込め、男女関係を強要した。曼楨は妊娠してしまい、子どもが生まれるまでずっと姉の家に監禁されていた。

婚約者の沈世鈞は曼楨を探し続けたが、姉の陰謀で、使用人が彼に曼楨に上げた指輪を返し、曼楨が結婚して上海を離れたと嘘をついた。沈世鈞はやがて別の女性と結婚し、父の仕事を受け継ぐため南京へ行った。

曼楨は病院で出産した時、同室の女性に同情され、姉に赤ん坊を育ててもらうため、赤ん坊を病院においたまま、逃げ出すことに成功した。その後、知人から婚約者の沈世鈞がすでに結婚したと聞いて、大きなショックを受けたが、小学校の仕事をを見つけ、体も徐々に回復した。しかし、その後姉は結核で死亡し、自分の子どもも重い病気にかかっていることを知った。子どもを看病している内に、とうとう姉の夫と仮面夫婦の結婚生活が始まるが、夫の浮気で、子どもを連れ出して家出をする。

歳月が流れていく。曼楨と沈世鈞の子どもがそれぞれ大きくなった頃、二人が偶然再会し、真相がすっかり明らかになったが、過ぎ去った日々はもう戻って来ないと二人ともそう思っていた。

『十八春』と『半生縁』とは、第1章から第12章までは、大きな相異はないが、第13章から最終章までは顕著に現れる。

次に、第13章から最終章までの相異について考察する。(下線部分は筆者によるもので、相異箇所を提示する)

章	『十八春』	『半生縁』
第13章	<p>・二人が郊外で散歩している。叔恵は世鈞に「折りよく来られたね。ちょうど直接告げたいことがあり、それは手紙では書けない事だ」と言った。「どんなことなの、こんなにも神秘的に」と世鈞は笑いながら聞いた。叔恵はちょっと笑って「来月上海を離れることとなった」と言った。「どこへ行くの？」と世鈞が聞いた。「…(中略)…同じ寮に住んでいる人に本を借りて読んでいるうちに思想的に大きな変化が起きた。」と叔恵は小さな声で言った。その時紅軍が北上してすでに<u>陝西省に辿りついた。</u>…(中略)…「私たちのようなエンジニアはここに居ると、どんなに努力しても権力者に使われてしまうのみ。しかし、向こうへ行けば、真に人民に奉仕することができるかもしれない」と叔恵は言った。(233頁)</p>	<p>二人が郊外で散歩している。叔恵は世鈞に「折りよく来られたね。ちょうど手紙書こうと思っていた。<u>奨学金をもらい、アメリカへ行き、貧乏学生となり、向こうで暮らす。</u>仕方がなかったことだ。ここに居ても無為に日を送っているだけだ。博士学位をもらって帰国すれば今よりもましかもしれない。…(中略)…興味があれば向こうに行ってから、人に頼んでみるから、あなたも行きませんか。(319頁)</p>
第14章	<p>・叔恵はドアに寄りかかって低い笑い声を出しながら「知らせたいことがある。他の友人には言っていないが、貴方に言っても大丈夫だ。<u>僕は解放区に行くつもりだ</u>」と言った。楨曼はびっくりして、長い間黙りこんでいて、低い声で「今、行くことができますか」と聞いた。(251頁)</p>	<p>・叔恵は笑いながら「僕はもうすぐ出発する」と言い、そして<u>外国に行くことを彼女に教えた。</u>曼楨はもちろん叔恵の為に喜んでいて。(337頁)</p>

<p>第 15 章</p>	<p>・顧ばあさん(曼楨の母)は、「<u>国民党の軍隊が町に入ってすぐ地方の有力者 10 人を銃殺した。(292 頁)…(省略)…日本人が進駐時、慕瑾はずっとある寡婦の家に隠れていた。…(省略)…何日か隠れたら、国民党が戻ってきたため、慕瑾はやっと表に出てきて病院に戻れた。思いも寄らなかったことは、何日も立たないうちに国民党に逮捕された。…(省略)…恨まれた人がいるとか、彼の病院を手に入れたい人がいるようだとか</u>」と言った。(295 頁)</p> <p>・曼楨は暫くの間言葉も出なかった。慕瑾は唯一彼女に気配りをしてくれた人で、もしかしたら、すでにこの世には居ないかもしれない。日本人に死なされたらまだ分かるが、訳が分からず中国人の手によって死なされたら本当に憎い。…(中略)…しかし彼女は消極的に見ている。共産党は素晴らしいからこそ、勝利を勝ち取ることができないと信じていた。なぜなら、正義は世界を征服することができず、過去はそうであったし、将来もそうであるからだ。(296 頁)</p>	<p>顧ばあさんは、「その後日本人が侵攻してきて、彼(豫瑾)を逮捕し、病院の看護婦が皆強姦され、彼の奥さんも踏みにじられて死んでしまった。…(省略)…町中大変混乱となっていて、病院の機材は全部持っていかれた。それらの機具が目的だったようだ」と言った。(381 頁)</p>
<p>第 16 章</p>	<p>・すでに解放された後のことであって、叔恵は上海に戻ってくる。世鈞は知らせを受け取ってから翠芝と一緒に駅へ出迎えに行った。解放後の駅は面目一新の光景が現れていて、以前のような混乱な状態ではなくなった。(311 頁)</p> <p>裕舫(叔恵の父)はいまでも銀行で仕事をしている。銀行では皆人民服を着るので、裕舫も上下のセットを作ってもらった。その服を着ていると体型が丸くなり、綿入れの服を着ているように見えた。その時、人民服を着る人はまだ沢山おらず、流行の先端であった。叔恵は笑いながら「おじ様が人民服を着ているとより若くみえます」と言った。(312 頁)</p> <p>・裕舫は叔恵が数年前解放区で結婚し、相手は同じ工学関係のエンジニアであると裕舫が言った。(312 頁)</p> <p>彼(世鈞)は突然以前のことが一つ一つありありと目の前に浮かんできたように思えてきて、曼楨と知り合ってからのことを全部思い出してきた。最初に彼女に会ったのはいつのことだったのだろうか。数えてみればすでに 18 年が経った。そうだ、間違いなく 18 年なんだ。(329 頁)</p>	<p>・すでに戦後のことであつた。叔恵は帰ってくるので、世鈞と翠芝が空港へ出迎えに行った。…(中略)…空港内は閑散となっていて、戦争中、品物不足となっていた百貨店と同じようであつた。(398 頁)</p> <p>裕舫(叔恵の父)は抗戦時重慶に行き、まだ復員していなかった。母親と一緒にいかず、故郷に戻ったが、今回上海で叔恵の帰りを待っていた。空港で、「叔恵は結婚したがまた別れた。元の結婚相手は中国人だ」と言った。(399 頁)</p> <p>・話をしている内に、時間がすぐ経ってしまい、飛行機が到着した。フェンスを隔てて、叔恵は人込みの中で、小さな荷物を持って、レインコートを腕に掛けたまま歩いてきたのが見えた。(400 頁)</p> <p>・彼(世鈞)は突然以前のことが一つ一つと目の前に浮かんできたように思えてきて、曼楨と知り合ってからのことを全部思い出してきた。最初に彼女に会ったのはいつのことだったのだろうか。数えてみればすでに 14 年が経った。そうだ、間違いなく 14 年なんだ。(411 頁)</p>
<p>第 17 章</p>	<p>・世鈞は曼楨のことを思い出すたびに、ずっと彼女のことを思い続けたと感じた。たとえもう彼女のことを忘れたと思っていた時でさえも、彼女はやはり存在し、彼のすべての思考の中に存在していた。(330 頁)</p> <p>・ある日(世鈞が)突然新聞で政府が東北で仕事をするため各種の人材募集をしてい</p>	<p>(最終章)</p> <p>・叔恵はアメリカのことを話している。戦時中求人チャンスが多くて、待遇も割りと良かったこと。世鈞は「資格を苦労してもらえた。その時一緒に行けばよかった」「こちらの暮らしは本当につまらない。しかし、総括してみると価値があるようにも思える。他のことは言わな</p>

	<p>るのを知った。彼はとても良いチャンスと思った。(341 頁)</p> <p>(二人は)黙ったまま肩を並んで歩き、暫くしてから世鈞はようやく微笑みながら「叔恵にどんな用事なの?」と聞いた。曼楨は「<u>新聞で東北で各種の人材を募集している記事を読んで、経理仕事の試験を受けてみた</u>くて、叔恵に相談しに来た」(343 頁)、「<u>東北に行けば…(中略)…誰でも人民に奉仕することができる</u>」と言った。(350 頁)</p>	<p>いが、二人の子どもを見ると、人生はこのようなことであろう」と言った。(414 頁)</p> <p>・彼(世鈞)は明日叔恵に会ったら、アメリカへ勉強しに行くチャンスがまだ残っているのかを聞いてみたい。勿論、ここ数年間が無駄に流れ去り、以前のようにはもうできなくなった。(423 頁)</p> <p>・歩いている内に大通りに出てきた。…(中略)…曼楨は「<u>世鈞、私たちはもう過去に戻れなくなった</u>」と言った。彼もこれは真実だと分かったが、それでも聞いてから震えてきた。<u>彼女は頭を彼の肩におき、彼は彼女を抱いた。</u>(427 頁)</p> <p>・以前、最後に会ってからの離別は突如であったため告げることができなかった。しかし今日ここから出て行けば永遠の別れとなり、死んだのと同じことだとはっきりと分かっていた。(429-430 頁)</p>
第 18 章	<p>(最終章)</p> <p>瀋陽での出来事が描かれる。ある晩、歓迎会が催され、この度東北に来られた人々のために現地の文工団が公演を行った。…(中略)…観客席で世鈞と妻が町医者をし、その妻を亡くした慕瑾と偶然に再会し、曼楨も瀋陽に来ていることを告げる。慕瑾は公演終了前に会場を出て曼楨を訪ねに行く。世鈞は心から二人に祝福を送っていた。(355-357 頁)</p>	

【参考資料】

- 榎本英雄／范晓 著、1996 年 4 月 5 日第 6 刷『エクスプレス上海語』(白水社)
- 阮恒輝 著、2014 年 8 月『上海話教程』(上海辞書出版社)
- 錢乃榮 編著、2008 年 4 月第 5 版『上海話大詞典』(上海辞書出版社)
- 丁迪蒙 著、2015 年 1 月第 2 版『学説上海話』(上海科技文献出版社)
- 宮田一郎 編著、昭和 63 年 9 月 10 日『上海語常用同音字典』

【参考文献】

- 張恵苑 編集、2014 年 1 月『張愛玲年譜』(天津人民出版社)
- 余斌 著、2001 年 12 月第 2 版『張愛玲伝』(広西師範大学出版社)
- 「張愛玲作品」
- 『十八春』1986 年 1 月第 1 版(江蘇文藝出版社出版)
- [長篇小説]『半生縁』2001 年 4 月 1 日(皇冠文化出版有限公司・典藏初版一刷)